

霧島山（新燃岳）の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

＜火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）が継続＞

本日（26 日）午前、航空自衛隊新田原救難隊の協力を得て行った上空からの調査では、火口内に蓄積された溶岩は、3 月 22 日と比較して大きな変化はありませんでした。白色噴煙は、主に溶岩縁辺の北側および東～南東側から火口縁上 50m 程度上がっていました。

【防災上の警戒事項等】

新燃岳火口から概ね 3 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石や火砕流に警戒が必要です。

風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。これまでの噴火では、風に流されて直径 4 cm 程度の小さな噴石（火山れき）が新燃岳火口から 10km を超えて降りました。

また、爆発的噴火に伴う大きな空振に注意が必要です。噴火警報等及び霧島山上空の風情報に注意してください。

降雨時には泥流や土石流に警戒が必要です。降雨に関する情報に注意してください。

○活動概況

・上空からの調査（図 1）

本日（26 日）、航空自衛隊新田原救難隊の協力を得て行った上空からの調査では、火口内に蓄積された溶岩は、3 月 22 日と比較して大きな変化はありませんでした。白色噴煙は、主に溶岩縁辺の北側および東～南東側から火口縁上 50m 程度上がっていました。

・地殻変動の状況（図 2）

傾斜計では、22 日 05 時頃から新燃岳側のわずかな隆起の変化が認められます。これまでこのような変化が認められた場合に噴火が発生する事例がありました。ただし、傾斜変化が認められても噴火が発生しない事例もあります。

・地震や微動の発生状況（図 3）

火山性地震は、増減を繰り返しており、24 日から多い状態が続いています。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。



図 1 霧島山（新燃岳） 火口内の状況

- ・火口内に蓄積された溶岩に大きな変化はありませんでした。
- ・白色噴煙は、主に溶岩縁辺の北側および東～南東側から火口縁上 50m 程度上がっていました（赤丸）。

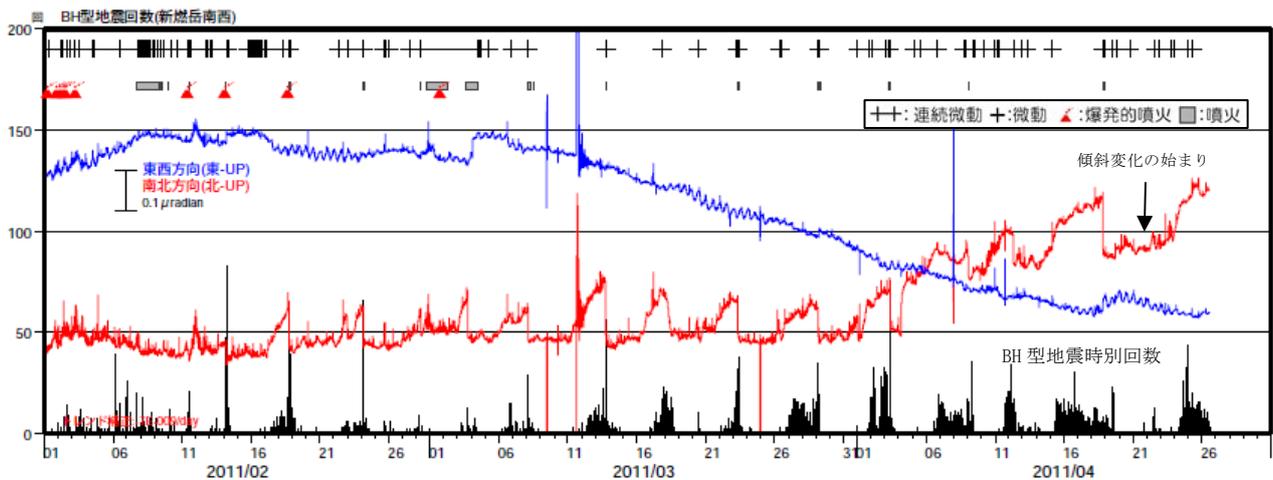


図 2 霧島山（新燃岳） BH 型地震¹⁾の時間別回数と高千穂河原傾斜計の変化
(2011 年 2 月 1 日～4 月 26 日)

22 日 05 時頃(↑)から新燃岳側のわずかな隆起の変化が認められます。ただし、傾斜変化が認められても噴火が発生しない事例もあります。

1) 火山性地震のうち、相が不明瞭で比較的周期が長く、火口周辺の比較的浅い場所で発生する地震で、火道内のガスの移動やマグマの発泡などにより発生すると考えられています。

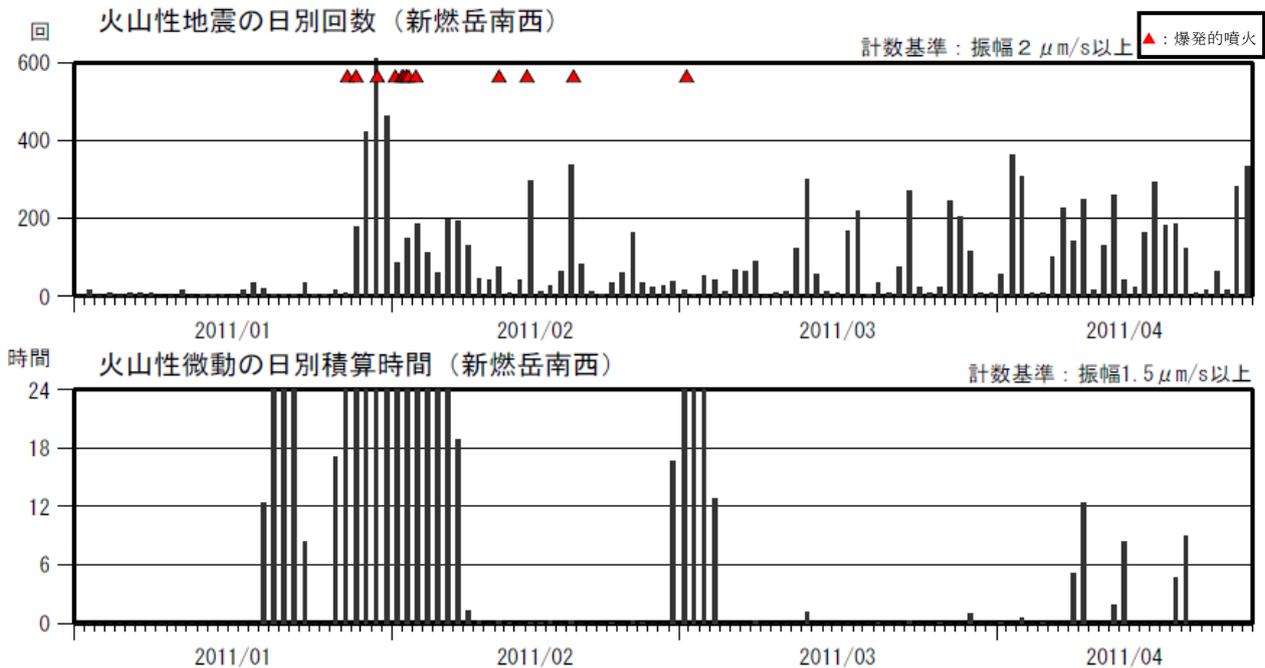


図 3 霧島山（新燃岳） 火山性地震の日別回数・火山性微動の日別積算時間速報値
(2011 年 1 月 1 日～4 月 25 日)

火山性地震は、増減を繰り返しており、24 日から多い状態が続いています。